月とひまわり

おたんこなす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月とひまわり

【Ｎコード】

Ｎ３７３６ＢＡ

【作者名】

おたんこなす

【あらすじ】

月とひまわりに会話をさせてみました。

ひまわり「太陽ばかり見つめているんだけど夜はどうしようもないね。」

月「夜は私を見つめればいいじゃない？」

ひまわり「君を？それは嫌だな、君を見つめると胸が痛むんだ。」

月「そうなの？そりゃあ太陽ほど何かを与えられるわけじゃないけど無いよりはましじゃない？」

ひまわり「はは、君は太陽に照らされて反射しているだけじゃないか。自力で輝けないなら魅力は感じないよ。」

月「仕方ないさ、輝けるものなんて一握りで後は照らされるか、最悪なのは陰に隠れてしまうものだってあるんだから。」

ひまわり「そういう意味じゃ君は良いポジションにいるよね、太陽に照らされ続けてさ。」

月「そうかな？夜しか知らないっていうのも淋しいもんだよ。」

ひまわり「いやいや、日が沈む淋しさなんて知らない方が良いよ。赤い夕陽を見ているとたまらない気持になるもんさ。」

月「そういうもんか？でも、それなら尚更私を見つめればいいじゃない？太陽の変わりにはなれないけど少しは気がまぎれるんじゃないかな？」

ひまわり「それはやっぱり無理だよ。だって僕らはただ太陽を求めているんだから。何を見ても太陽を思って淋しくなっちゃうよ。だからもう寝るよ。夜明けを待つんだ。さようなら。」

月「そっか、おやすみ。」

月は太陽を見つめました。太陽は眩しくてその実体は良く見えません。月は思いました、太陽は私達を照らしその輪郭を浮き彫りにする、でも太陽は姿をはっきりとあらわさない、ただ輝くことをやめないだけだ。きっと太陽は誰からも理解されない、孤独に輝くだけ。私達はその輝きの中で感情すら照らし出されている。本当に淋しいのは誰なんだろう？太陽は何を思うのだろう？

そのころ金星と水星が言い争いをしていました。

金星「おい、こんなとこで屁をこくんじゃないよ。」

水星「バカ言うな、俺は屁なんかこいてない。」

金星「俺だってこいてない。お前意外に誰が居るんだよ？」

金星は言ってしまってハッとしました。水星もハッとしました。

太陽は真っ赤に燃えていました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3736ba/

月とひまわり

2012年1月9日19時47分発行